



総合教育会議資料

伊丹市教育委員会
令和7年10月15日





【議題 1】

これからの子どもの放課後・休日の充実に向けて



1 これからの子どもの放課後・休日の充実に向けて

(1) 本市における青少年犯罪の状況

*非行少年は、20歳未満の者で犯罪少年、触法少年、ぐ犯少年を指す。

【*初発型非行少年の現状】（※伊丹警察署管内の数値であり、他市在住の少年も含む）

（単位：人）

	①万引き	②自転車盗	③単車盗	④占有離脱物横領	合計検挙数	⑤喫煙	⑥深夜徘徊	⑤+⑥
令和4年	14	2	8	1	25	524	653	1177
令和5年	12	7	1	0	20	330	686	1016
令和6年	20	13	2	4	39	577	780	1357

※伊丹警察署管内での少年犯罪検挙の状況

※①～④ 初発型非行（兵庫県内で上位）
⑤～⑥ 少年補導

（伊丹警察署調べ、1～12月までのデータ）

【令和6年度の取組】

アリオ前広場のい集対応

- ・昨年度夏休みに週1回程度、21時から1時間程度、有岡城跡公園周辺及びイオンモール周辺の見守り活動を実施
- ・有岡城跡の木々の伐採とともに、見守りカメラの設置

現在は減少傾向

少年補導件数 496件（令和6年1～4月）
133件（令和7年1～4月）

【継続的に行っている少年犯罪未然防止に向けた取組】

- ・地区別街頭補導
- ・相談業務（なやみ相談カードの配布等による相談先の周知）
- ・「青少年を守る店」運動の推進 等



1 これからの子どもの放課後・休日の充実に向けて
(2) 子どもの放課後・休日の過ごし方 <教育所管分、※は市民自治部所管>

放課後学習等推進

夏季自由プール

部活動の地域移行

部活動

緑ヶ丘体育館・武道館、スポーツセンター、ローラスケート場等 各種教室

土曜学習

自習スペース（生涯学習施設・図書館・公民館）

きらら・ラストホール、公民館、図書館（イベント、講座等）

青少年活動支援 体験活動（キャンプ）等を通じ、社会性や生きる力を身につける

青少年センター

園庭解放

むっくむっくルーム

児童クラブ

ファミリー・サポート・センター

児童館（こらくる、神津児童館※、ふらっと※）

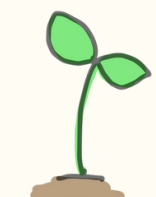
3歳～5歳
(幼児)

6歳～12歳
(小学生)

13歳～15歳
(中学生)

16歳～18歳
(高校生)

教育



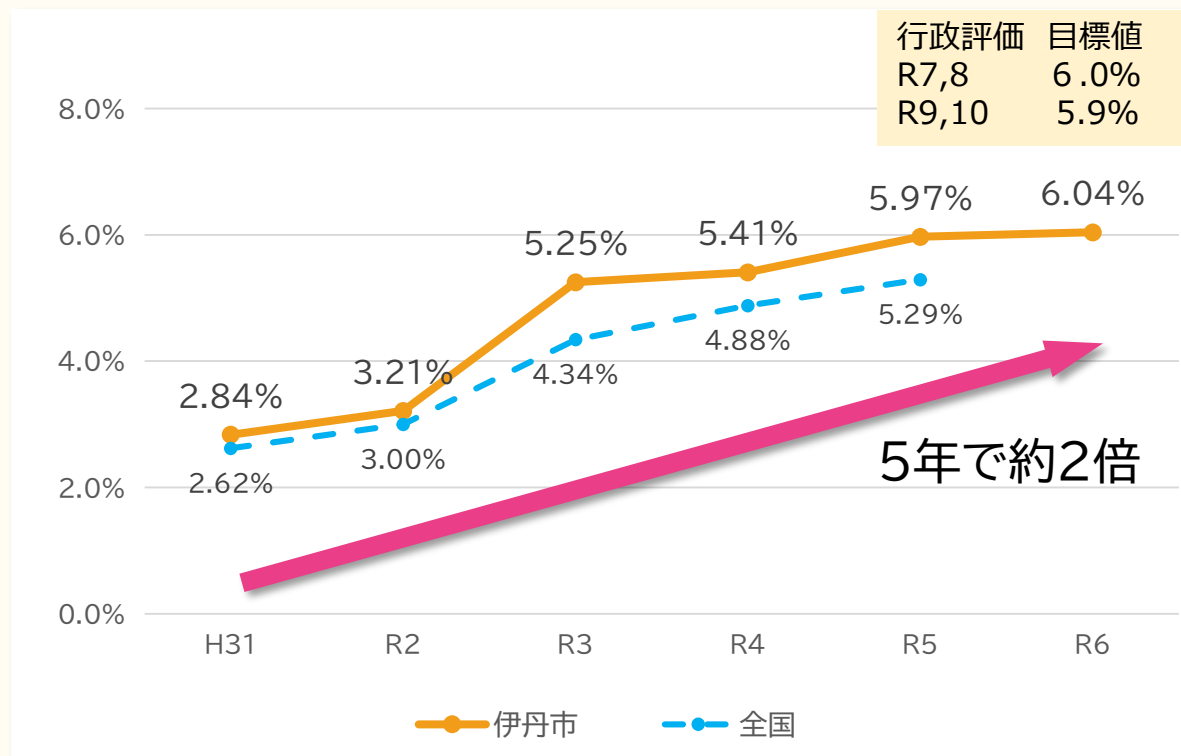


【議題2】 長期欠席児童生徒の社会的自立を目指して

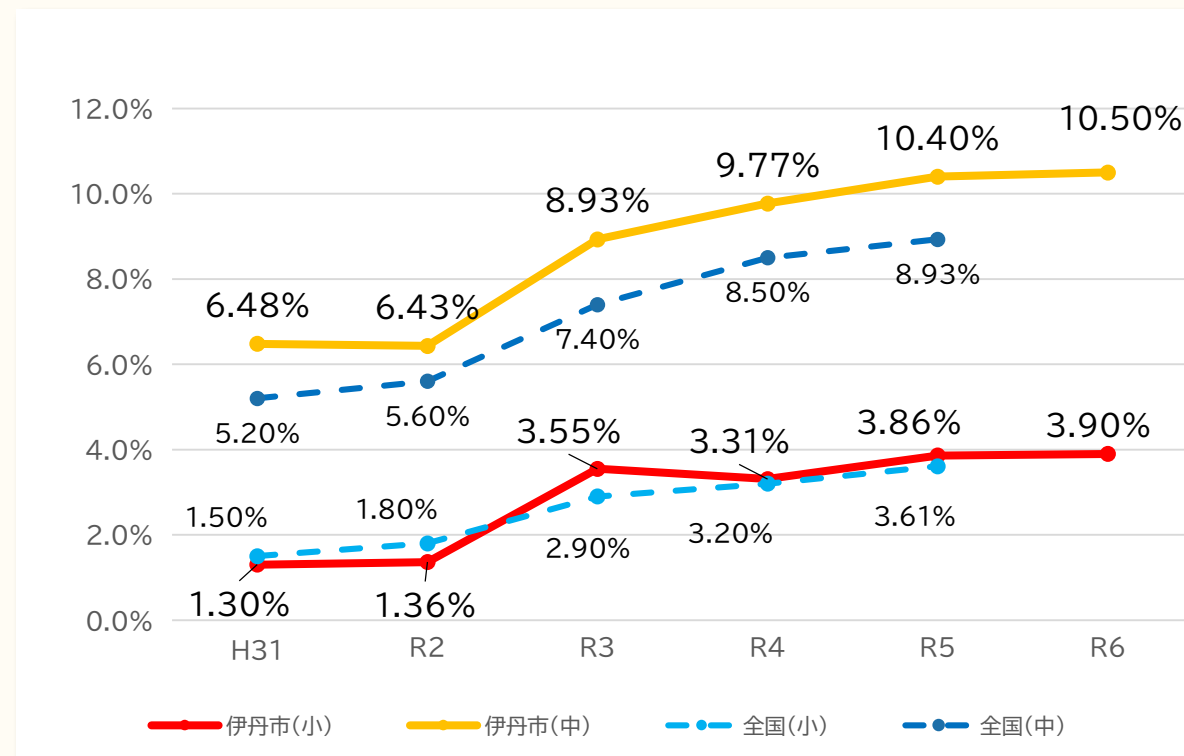


長期欠席児童生徒の現状と課題

伊丹市と全国の推移



伊丹市と全国の小中学校別の推移



- ・ 不登校の直接のきっかけの上位は、**不安などの情緒的混乱(34.9%)**、**無気力(15.9%)**が小・中ともに高い。
- ・ 小学校では家庭内不和、中学校では友人関係の割合が他校種に比べて高い。
- ・ 長期欠席児童生徒数を同一学年の前年度と比較すると、**小学6年から中学1年時**に最も長期欠席児童生徒の割合が増えている。

不登校支援のイメージ(学校教育部所掌事業)

※あくまでイメージです

学

: 学校教育課

愛

: 愛護センター (総合教育センター)

長

時間軸

短

軽

重

教育相談事業

愛

※不登校の他に「いじめ・虐待・子育て等」教育全般の相談業務を実施

事業内容: 平日+土曜日に電話・来所による相談を実施

学

SC・SSW活用事業 (SC)

心の問題解決(カウンセリング)、
職員研修・相談など※不登校の他に「いじめ・
虐待・子育て等」教育全般
の相談業務を実施

学

不登校対策支援員配置事業

学校長の命を受け、担任・生徒指導担当等と連携し、
「心のケア」「個別対応」「学習支援」を行う

対象: 初期段階の児童生徒

例: 迎えがあれば、別室なら登校できるなど

愛

不登校児童生徒の支援事業

(教育支援センター「やまびこ」運営等)
事業内容: 社会的自立に向けた支援等
(学習支援、在籍校との調整)対象: 学校への登校は難しいが、
教育支援センターへは通
所できる児童生徒

愛

不登校児童生徒の支援事業
(メンタルフレンド派遣事業)

ひきこもり傾向の児童生徒への支援(家庭訪問)

対象: 学校や教育支援センターを含め、
家庭の外に出ることが難しい児童
生徒(オンライン支援含む)

学

SC・SSW活用事業 (SSW)

福祉など取り巻く環境への働きかけ
(相談、連携等)※不登校の他に「いじめ・虐待・子
育て等」教育全般の相談業務を実施

カラフルな教育



令和7年度の取組（中長期的な視点に立った取組）

小中一貫教育

- ・「小中一貫」をテーマとした研修の実施（管理職対象）
- ・小中合同担当者会の実施
- ・中学校ブロック夏季研修会の実施
- ・「小中一貫」をテーマとしたコミュニティ・スクールフォーラムの実施（学校運営協会委員等対象）

「睡眠」を中心とした生活習慣の改善

大阪大学大学院連合小児発達学研究科と連携した取組

- ・「睡眠」をテーマとした研修の実施（管理職対象）
- ・小学校視察及び調査協力
- ・大阪大学監修による5歳児から中学3年生までの保護者向け啓発チラシの作成・配布
- ・学校風土調査等の協働研究

不登校対策パッケージ事業チーム「つなぐ」

- ・長期欠席者が小6から中1にかけて大きく増加していることに着目
- ・専門家チーム（臨床心理士、SSW、担当指導主事等）で小6と中1を対象としたアンケートの作成
- ・2学期にアンケートを実施し、子どもたちの心理的に負担になっていることなどについて把握



←
5歳児～小学校4年生、
小学5年生～中学1年生、
中学校2・3年生、
特別支援学校用
の4種類を作成し、夏季休業前に配布

